

「より深い祈りへ後編」

「祈りを深める」ことを求め、祈りを聞いて下さる神様に近づくとき、自分自身の心の姿が解ってきます。十字架の血潮によって罪が赦されているはずの私たちですが、自分の肉の心に気付くとき、苦しくなります。放っておけば、喜びが薄れ、祈りは空しくなって、信仰生活はスランプに陥ってしまいそうです。しかしその時こそ、神様のチャンスです。火をもって焼き尽くす聖霊の神様が介入して下さるときです。主は大きな祝福を与えて下さいます。

神様の取り扱い人は人によって違いますが、今回は、旧約のアブラハムの孫ヤコブの姿を見ながら、神様がどのようにヤコブに霊的な取り扱いを与えられるかをみていきましょう。

今日の聖書の学びの要点

- ・神様は真剣に悩み、求める者に必ず応えて下さいます。
ご聖霊が私たちに神様とのより深い交わりを与えて下さいます。愛なる神様が、その人に合わせた霊の取り扱いを、祈りを通してねんごろに導いて下さいます。

I、霊的成長の過程

1、ヤコブの「救い」はどこから始まったのでしょうか。

①押しのける者ヤコブの「救い」は、罪を犯し、罪の結果を招き、何も持たないで逃げ出すところから始まります。

・父と兄を騙したヤコブを兄エサウはどう思いましたか。(v41)

・神様の祝福を横取りしたヤコブは、恨みを買い、家から逃げて行きました。

(ガラテヤ 6:7)

②本来、「救い」とは、罪の赦しが与えられ、永遠の滅びから救われることです。

・創世記 28：11～22 を読みましょう。どうして神様は、自己中心で狡猾なヤコブに近づき語られるのでしょうか。

・「天の梯子」の夢を見させられたヤコブですが、まだハッキリとした罪の自覚と

罪の赦しは与えられていません。しかし、救いのヒントが与えられました。(v12)

- ③ 何もかも失ったヤコブですが、何よりも重要と考え、手に入れずにおられなかった神様の祝福は変わりませんでした。

◎ 神の選び(v15)

◎ 神様をどれだけ重要としているか

2、肉との戦い

- ① 逃げて行った先でも狡猾なヤコブの性質は変わりません。しかし故郷に帰るために最大の心配は兄エサウです。ヤコブはどのように思ったのでしょうか。
(創世記 32:11)

エサウと 400 人が自分を殺しにやって来る。 (創世記 27 : 41 のエサウの言葉！)

- ② 兄エサウに会うために、考えられる方法は何でしょうか。

- ・ 兄に謝る (肉の性質の者には難しい)
- ・ 兄に謝らないで、上手くやる方法… いざとなったら逃げる

肉のヤコブの方法… 最初にエサウをなだめる贈り物。

贈り物と贈り物の間を開けて、時間を稼ぐ。

次に家族、最後に自分 (全部殺されても、自分だけ逃げる)

---自分だけ、ヤボクの橋を渡らないで残る

Ⅱ、神様が介入される

- 1、神様は自分に失望し、神様に迫る者に出会って下さいます。
(ローマ 7:24) (ガラテヤ 5:16)

- ① ヤコブは、格闘してくださった主を放さなかった(創世記 32 : 26)
- ② 神様はヤコブの真相をあばかれる方です。(創世記 32 : 27)
- ③ 自分の真相を告白するとき、神様は変えてくださいます。(創世記 32 : 28)

- 2、殺しにやって来たエサウに、一番先に出て、7 回もお辞儀し、謝った姿にエサウはどうしましたか。(創世記 33 : 3~4)